

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス千歳教室		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	令和7年3月10日		～ 令和7年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児発管、保育士・児童指導員、支援者と保護者とのコミュニケーションがとれている点。(意思疎通、情報伝達)	毎日の朝ミーティング、打ち合わせ、定期ミーティングで保護者・ご家族からの情報を共有する場を作れている。また、連絡帳にご家庭の様子を書いていただいている方、お悩み相談等にはコメントをさせていただき、直接お話す時間がとれない中で、さまざまなツールを活用して情報共有・情報交換をすることができている。	保護者会を定期的実施したり、親子で参加できるような企画を活動の中で実施していきながら、より支援者と保護者のコミュニケーションが図れるような機会を設ける。また、保護者にも活動に参加しているお子さんの様子を間近で見ていただく機会を増やすことで、ご家庭での会話もより増えていくように取り組みを考えていく。
2	職員配置のバランス (児童デイや福祉施設での経験年数・性別・年齢等)	職員を採用する際に経験や資格だけでなく、子育ての経験に関してや療育に対する考え・姿勢・気持ちを面接で聞き取りを行う。また、採用する前に事業所見学を設け、実際にお子さんたちと関わった上で再度意思確認を行う。どういった人材が事業所に必要であり、求めていくところなのかを職員全体で話し合い、共通認識ができるようにしていく。	職員配置が整った後は個々のスキルアップをあらゆる形でできるように時間を作っていく。オンラインでの研修や支援者勉強会、また資格取得に向けて必要に応じた準備やリサーチをしながら、支援の質の向上につながる取り組みを個々でも全体でも行っている仕組みや体制を作っていく。また、意見をどんどん発信し、モチベーションを維持していく。
3	長期休みや土曜日のイベント・取り組み (室内での取り組み、課外活動、地域との交流)	平日は室内での活動がほとんどであるため、長期休みや土曜日営業の際は外出・外食・公共施設見学等の機会を設け、社会勉強の意味合いも含め、幅広い取り組みを安全面を配慮した上で実施している。	保護者にも取り組みたい・やってみたいと思うことをアンケート等で聞き、可能な範囲で実施していきながら、新たな可能性を模索していくきっかけにつなげていく。また、事業所内にとどまらずに交流の場の視野を広げていき、つながりを深めていけるように模索していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の連携や交流の機会が少ない。	お仕事をされている方が多かったり、土曜日はご家族で過ごしたいという方が多い中で交流の場を時間・環境に限られる中で作っていくことが難しい。また、保護者の要望を全体的に聞く機会が自己評価公表の期間のみになっているため、思いや考えを上手く聞き出せていないことも反省点になっている。	時間が限られる中でも、保護者の思いと支援者側の思いをお互いにしっかりと感じ、機会をできるだけ増やしていきながら、時間がとりやすい・都合が合わせやすい状況を少しでもできるように配慮をしていく。また、実施したことをまたブログやお便りで周知し、「参加してみたい」と思ってもらえるような有意義な時間にしていく準備をしっかりと行う。
2	災害マニュアルの周知・説明	定期的な避難訓練や感染症対策に関するミーティングは実施しているが、実際に保護者に説明をする機会はご契約の時にそれほど時間をとってはできていない。健康状態を確認したり、通園・通学先の感染症状況等は情報として聞いているが、事業所側からの周知が結果的に不足していることは否めない状態となっている。	マニュアルを紙ベースで配布することも方法ではあるが、保管するのに苦慮する方も考えられるため、データベースでお知らせをしたり、気になったことを簡潔にわかりやすくお伝えできるように掲示しておく、すぐに確認したり見れる場所に設置しておく等、周知の仕方も必要に応じて考えていきながら、すぐに知れるようにしておく。
3			